

3 上昇した企業物価、下落した消費者物価

2011年度の企業物価（全国）は、国際商品市況高を背景に2年連続で上昇した。消費者物価（名古屋市）は、エネルギー価格が上昇したものの、耐久消費財の下落が続いたことから3年連続で下落した。

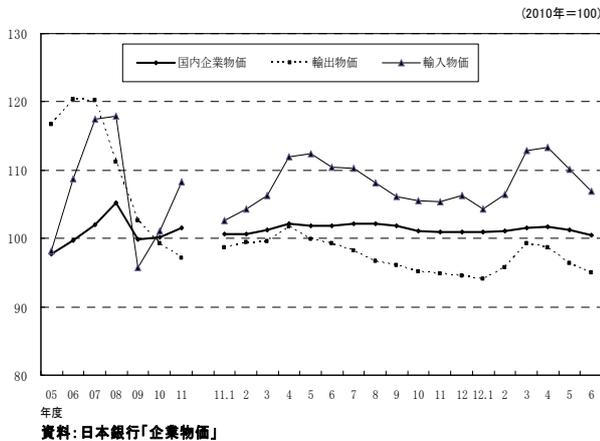
（2年連続で上昇した企業物価）

企業物価の動きを全国で見ると、2011年度の国内企業物価指数（2010年=100）は、101.6となり前年度に比べ1.4%上昇した。国際商品市況高が上昇要因となる一方、企業間の価格競争により、上昇率は小幅なものとなった。

輸出物価指数は、円高が進んだことにより前年度比2.2%下落の97.1となり、5年連続で下落した。下げ幅は2年連続で縮小した。

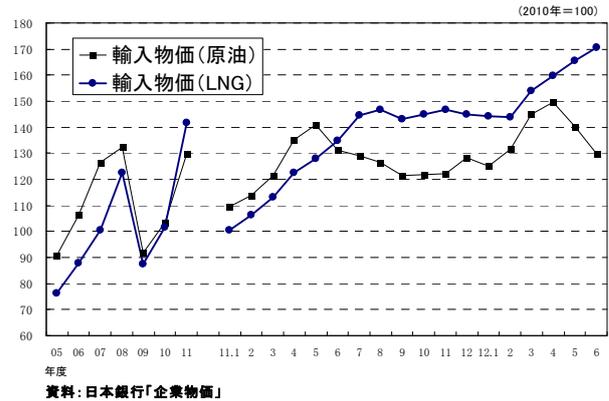
輸入物価指数は、前年度比7.1%上昇の108.4となり、国際商品市況高を反映して2年連続で上昇した。上げ幅は10年度より拡大した（図表3-1）。

図表3-1 企業物価指数の推移



輸入物価指数でウェイトの高い石油、天然ガスをみると、原油は10年度の対前年度比12.6%上昇に引き続き11年度は同25.6%上昇と2年連続で大きく上昇した。原発停止に伴う火力発電の代替により11年度から輸入量が大きく増加した液化天然ガス（LNG）も、10年度の同16.1%上昇から11年度は同39.3%上昇と更に大きく上昇した。これには新興国を中心とした世界経済成長による需要増と中東の民主化運動をきっかけに原油相場が上昇したことが影響している（図表3-2）。

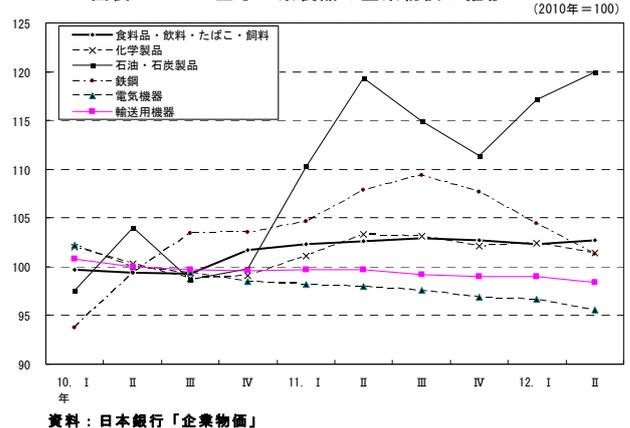
図表3-2 輸入物価指数（原油、LNG）の推移



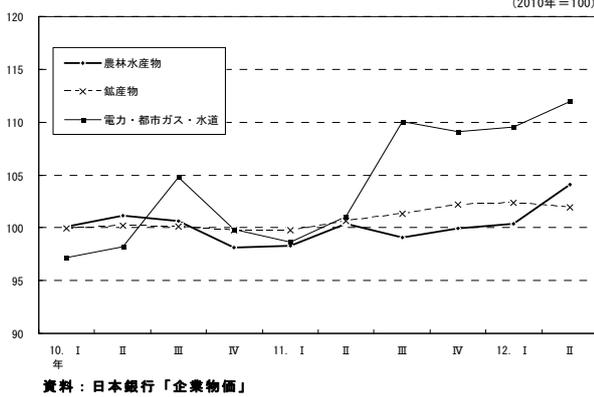
（国際商品市況の高騰を受けた石油・石炭製品）

2011年度の国内企業物価を四半期別で見ると、新興国の需要増加や国際商品市況高を受けて石油・石炭製品が11年1-3月期から急激に上昇し、7-9月期、10-12月期には一時下落したものの、その後上昇し高い水準を維持した。鉄鋼も同様の理由により、11年1-3月期から3四半期連続で上昇したが、10-12月期以降は、需給バランスの悪化により下落した。電力・都市ガス・水道は、電力が燃料価格の上昇を反映して11年7-9月期に大きく上昇し、その後高止まりした。農林水産物、鉱産物は横ばい傾向にある（図表3-3、3-4）。

図表3-3 主な工業製品の企業物価の推移



図表 3-4 工業製品以外の企業物価の推移

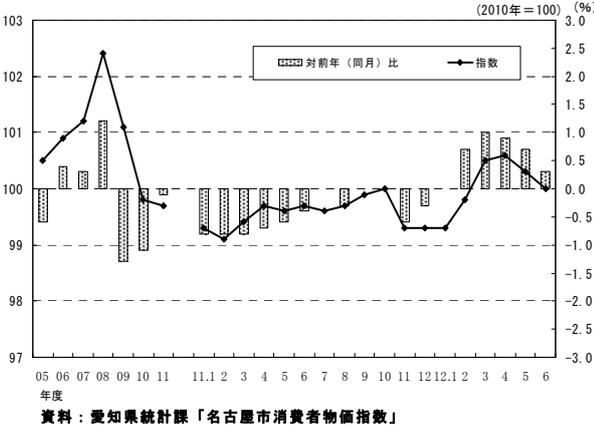


(3年連続で下落した消費者物価)

消費者物価の動向を名古屋市消費者物価指数(2010年=100)の動きでみると、11年度の総合物価指数は99.7と前年度に比べ0.1%下落した。下落幅は縮小したものの3年連続の下落となった。年度を通して資源や穀物価格の国際的な上昇があり、関連費目に上昇がみられたものの、デフレ傾向は変わらず、全体としては下落した。

月別でみると、11年4月以降、光熱・水道や食料の上昇により上昇傾向で推移したが、テレビなどの耐久消費財の下落率が拡大したことにより11月から低水準が続き、年度末には食料の上昇率の拡大により上昇した。対前年同月比では、09年5月から下落が続いていたが、11年4月以降、光熱・水道が上昇したことにより、全体の下落率は縮小していった。11年度後半からは食料も上昇傾向になったことから、12年2月には上昇に転じた(図表3-5)。

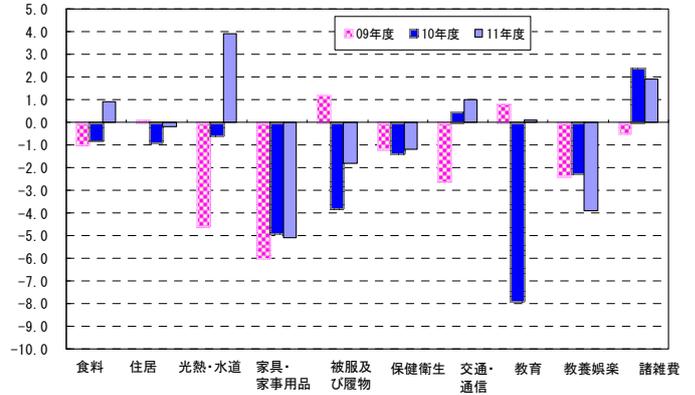
図表 3-5 消費者物価指数の推移(名古屋市)



(耐久財の値下がりにより下落した教養娯楽)

10大費目指数の動きをみると、2011年度はテレビ、パソコンなどの教養娯楽耐久財の値下がりにより教養娯楽が対前年度比3.9%の下落、電気冷蔵庫などの家事用耐久財の値下がりにより家具・家事用品が同5.1%の下落、医薬品などの値下がりにより保健衛生が同1.1%の下落となり、いずれも3年連続で下落した。被服及び履物、住居も下落した。一方、原油、LNGの価格上昇により電気代、ガス代、ガソリンなどが上昇したことから、光熱・水道が同3.8%、交通・通信が同1.0%と上昇した。また、10年10月にたばこ税が増税された影響で、諸雑費が上昇した。食料、教育も上昇した(図表3-6)。

図表 3-6 費目別消費者物価変化率の推移(名古屋市)



石油関連の消費者物価を表す代表的な品目としてレギュラーガソリン価格をみると、09年4-6月期以降上昇が続いており、11年4-6月期には約150円まで上昇した(図表3-7)。

図表 3-7 レギュラーガソリン価格の推移(愛知県)

